

「20周年を迎える府中市美術館の運営について」意見抜粋

1 有料と無料について

(1) 無料入館ができる学びのパスポートを配布していることで、小中学生の入館者が非常に多く、夏の展覧会などは、学びのパスポートを使って両親と一緒に入館するケースも多い。このほか、無料には障害者手帳所持者とその介助者、視察や研修等、市民文化の日の入館者がある。

(2) 親子で来館すると他より割引になるチケットを作るのはどうか。

2 作品購入費について

(1) 美術品の購入予算のつく年とつかない年があるが、市の財政状況によるもの。毎年予算要求は行っている。

3 寄贈作品の公表について

(1) 寄贈作品について何が寄贈されたのかをもっと詳しく知りたい。他の美術館では「新寄贈作品」とかかかれていたりするので、ここでもしてはどうか。もっと大々的に宣伝した方が良い。5年毎に発行する年報にて公開しているが、もっと迅速に公表して欲しい。

4 公開制作での作品について

(1) 公開制作はあくまで制作過程の展示であり、作られた作品は必ずしも所蔵作品とはならない。作家から適正価格で作品購入するのが望ましいが、そのための購入予算がつかないこともある。

5 企画展の単独開催展について

(1) 単独開催については誇りにするべきである。美術館によってはほとんど新聞社などが持ち込んだものをやっているところもある中で、府中市美術館は単独開催という凄いことをしてきている。まずそのことを市の職員にも知られていないことが問題。学芸員がこれまで知られていない作家を掘り起こして展覧会を開催することは凄いことだともっと宣伝するべき。

6 新聞社と企画展について

(1) 府中市美術館の展覧会については、スポンサーという形ではなく、新聞社などと開催契約を結び分担金を支払うという形をとっている。営利目的でなく費用を拠出してくれるという企業もあるが、新聞社では展覧会を事業として

やっているの、儲からないものはしない。双方お金を出し合って成果も分けるといふ実行委員会方式もある。

(2) マスメディアが美術展を開催するといふのは日本独特のシステム。日本の展覧会のノウハウは新聞社とデパートが作り美術館がそれを導入している。現在ではデパート業界が振るわなくなっているが、展覧会だけでなくスポーツも新聞社がなければ現在のようにはなっていなかったらう。

7 新聞社との連携について

(1) 地方の美術館などでは、その地方のテレビ局や新聞社と提携すると、その地域への広告効果が非常に期待できるという強みがある。東京では各社あるため特定の事業者とは連携をとっていない。

(2) 新聞社が主催すると他紙で取り上げてもらえないデメリットがあるので、特定の新聞社とは組まない方が各社記事を書いてくれる。

8 展示室の騒音のクレームについて

(1) 府中市美術館では携帯電話の使用が禁止されている。国立美術館で写真撮影を許可しているのに市立美術館で禁止しているのは何故かという苦情もあるが、撮影可能な展覧会を見に行くと、頻りに撮影音がしており鑑賞環境が良くないと考えたため当館では禁止している。展示室では音に関する来館者館のトラブルが起きた事もあり、また子ども達にも美術館は静かに絵と向き合う所だと教えたいという考えもある。

(2) まったく全ての撮影がだめというわけではなく、この場所は良いとか、ケースバイケースで決めていくしかない。

9 20周年を迎える府中市美術館の運営について

(1) 平成32年はオリンピックパラリンピックがある。オリンピックはスポーツの祭典と同時に文化の祭典でもある。東京の美術館、博物館は何らかの特別な活動を行うことになっている。東京都から指示されて、時間もないまま関連事業をするよりは、こちら側から自主的に用意する方針が必要だと思う。

(2) 府中市美術館ではこの年に開館20周年が重なる年でもある。まずは20周年に向けて運営を見直す、あるいはこの先どのように運営し改善し、新しい時代を、市民のニーズに沿った美術館にするのかを考える必要がある。

10 20周年記念展特別予算と内容について

(1) 10周年の際には、所蔵作品をフランスのバルビゾンと連動させ、武蔵野の大地をフランスとつなげるという地域性に特化した展覧会を開催した。

20周年も府中市らしい当館のコレクションを活かしたものを考えている。

(2) 市民に愛される美術館であるために、今後に期待感を高められる展覧会を企画できないかと考えている。学芸員の人数も減員しており、展覧会の企画についても厳しい状況ではあるが、できるだけ自らで企画した展覧会を開催できるようにしたい。

1.1 20周年をむかえた設備の老朽化について

(1) 抜本的に直すべきところは洗い出すべき。その間にソーラーパネルといったコストダウンのためのシステムを整えるなどした方が将来的には良いのではないかと思う。

(2) 照明もLEDにした方が良い。消費電量はハロゲン電球の10分の1で済むし、あまり熱も発しないので冷房のための空調費用も抑えられる。その他寿命も長いので交換作業の回数も減り、交換に必要な人件費も抑えられるなど利点が多い。メンテナンスをして新しいものをいれ、20周年の企画展にもっていきたい。

1.2 展覧会の中断によるデメリットについて

(1) 当館は現在、企画展が好評で入館者数も増えている。天井改修に伴う半年の休館は大きなダメージとなるので、今後しばらくは展覧会の中断がないようこの長期休館を利用して、メンテナンスや修繕を行うべきである。改修に当たってはアンケートなども活用して洗い出し、例えば和式トイレの洋式化、授乳スペースの新設、展示室の動線連絡など、大掛かりな機器の更新と同時に市民サービスの面も重視して準備して欲しい。

1.3 改修の方法とポイントについて

(1) エントランスが暗い、屋外ベンチの破損、美術館外周のバナーの修繕といった来館者へのサービス環境を改善して欲しい。

(2) カフェの店舗内容、内装、接客などの改善が必要である。雰囲気は良いが、食べ物を電子レンジで温めて出すだけのわりにスタッフの人数が多いのが気になる。場所自体は外からも入りやすく雰囲気も良い。「ぱれたんライス」のようなもっと個性的なメニューを出すなどの工夫が必要である。そのためには厨房を改装する必要もあるかと思う。

(3) 他の美術館では、足を踏み入れたときにそれぞれ独特の雰囲気があり、展覧会の世界に入るが、府中市美術館にはそれが足りないように思う。せっかく改修をするのなら、2階に上がるときにもっとワクワクときらめくようなものにできないか。

(4) エスカレーターで上がった所に受付があると、何か威圧感を感じる。

14 将来の再来館が期待できるように

(1) 親子で楽しそうに観覧していたのを見たが、この子どもたちが大きくなったらまた府中市美術館に来たくなるような、オープンな雰囲気が出せるとよい。

15 アールブリュットについて

(1) 武蔵野市ではアールブリュットの展覧会について、市全体で確立してオリンピックイヤーまで続けようという市長の意向が反映されて動いているらしい。府中市ではそういった動きはないのか。

16 記念年までに実現したい事業について

(1) 府中市美術館はちょうど、区部と多摩と両方に向いているようなところがある。世田谷にも近いし、一方で町田からも近い。そういう意味では、逆に色んな重要な役割を果たす可能性を持っていると思う。人数も少ないので大変かもしれないが、これからの時代には必要なのではないかと思う。

(1) 武者小路記念館とはけの森美術館の3館で、ポスターやチラシの相互掲載といった連携事業を始めている。来館者への情報共有など美術館同士のつながりを強化していければと思う。

17 記念年の重要性について

(1) オリンピックパラリンピックまであと3年しかない。3年で本格的にやろうとしたら、ある程度考えておかないといけない。やはり本来のよい展覧会をやるとするのが問題で、予算もつけてやっていただきたい。それとは別に、市民が参加できる市民作品展や写真展などを実施してみるのもよいかもしれない。

18 周辺環境との調和と喫茶室について

(1) 20周年とオリンピックが重なるということは、府中の森全体で何かしようという話にもなるのではないかと思うので、連携をとる事も重要だと思う。公園のエリアも上手く利用できるとよい。

19 喫茶店の改善について

(1) 公園と美術館敷地をうまく調和させて、外でティータイムなどができるようにすればもっとゆっくりできる。現状のエリアではゆっくりできないし、外のベンチも古くなっているので改修が必要。

(2) カフェの前の小山で外から見えなくなっている。あの部分も全て座席に改修してしまうのはどうか。

(3) 公園ではスポーツをやっている人も沢山いるので、昼食に利用してもらえないようにできないか。

(4) もう少し気軽な形にして、お弁当を食べられるなど、皆が利用できる食事コーナーもあるとよい。

(4) 業者の問題があるので、方針だけは先に決めておかないといけない。修復だけでなく改築も視野に入れたいが予算次第。

20 見せ方も重要

(1) 今は学校でも ICT を活用している。美術館でも作品を見せるだけではなく、別のやり方があっても良いのではないかと思う。ビデオカメラをといた小物を使ったり、絵の中に入るようなシステムといったものが、今後の美術館を考えた時、先を見通して利用できる施設になるのではないかと思う。学校も黒板とチョークだけで事業を行うのではなく、ICT を利用して児童により興味をもたせたりしているので、同じようなことを美術館でもできるのではないか。

21 実作品と映像について

(1) 現在映像関連の物がいろんなところで出てきている。子どもたちが将来大きくなるとこれまでの絵画の世界から映像関係が出てくると思う。そのときに府中市美術館としてどう対応するのかを考えなければいけない。指導要領でも映像を導入しようという動きもでてきているので、今後は映像がスタンダードになるのではないかと思う。

(2) 最近はデジタル技術を活用した展覧会も多い。来館者の動きに合わせて目が動く美人画のある浮世絵の展覧会や、顔に合わせて果物や果実で肖像画を作ってくれて撮影できるコーナーのある展覧会など、今の時代ならではの面白さもある。府中市美術館の収蔵作品を使ってそういったアトラクショナルなものも視野に入れるべきなのではないか。

(3) 学芸員が補充できるのなら、映像関係に強い人などが来ると良い。自前でも作れる時代になっている。

(4) しかし美術館としての本道は忘れてはいけないと思う。美術館はアトラクションセンターではないので、そこはきちんと押さえた上で、どう演出をかけていくかということだと思う。特に複製、映像の技術は飛躍的に進歩しているので、そのあたりを展示の中でどう取り扱っていくかを考えるべき。

2.2 周辺案内について

(1) 京王バスのバス停の名称を「府中市美術館前」に変更することはできないのか。

(2) ちゅうバスのバス停名称も当初は違う物だったが現在は府中市美術館となった。多磨町ルートのご案内も「府中市美術館経由」と表記されるようになってきている。予算がつけば車内アナウンスで美術館の名称を流していきたい。

(3) 京王線や小田急線の「よみうりランド」も当初からその名所だったわけではない。ああいったものは市長から声掛けをしないと変わらないのではないのか。

(4) 美術館のホームページを見ると国道20号からのルートがあるが、国道に看板をつけて欲しい。

(5) 世田谷美術館は環状八号線の歩道橋に横断幕がかかっている。道路に看板を設置するのは難しいかもしれないが、横断幕は警察に許可を貰えばできるのではないのか。

(6) 有料でもポスターを貼らせてもらうのが有効なのではないか。

2.3 アンケートについて

(1) アンケートについて府中市美術館はどう対応しているのか気になる。修繕に係ることや、市民との協働の活動に対しても、何か役に立つ意見が出ているのではないのか。現在のアンケートでは書きにくいところがある。

(2) ネット上でアンケートは取れないのか。

(3) アンケートボックスを増やすのが一番楽なのではないか

(4) 平塚市美術館では、入り口に「美術館長へのお手紙」という封筒があった。中身はアンケートだが、アンケートの最後に個別回答の要不要を記入する欄があり、個別に回答を希望した場合には記入した住所へ回答を送付してくれるものと思われる。そういう形式でもよいのではないのか。

2.4 駐車場について

(1) 駐車場のスペースを増やして欲しい。十分な駐車スペースがあれば、少し離れた所からの方も来館しやすいのではないのか。

2 5 自転車について

(1) 海外のように駅前にレンタル自転車があって、府中の施設にいけるとい
うものが広まると良い。府中市美術館のキャッチフレーズもあると良い。

(2) デンマークでは駅前や美術館などの施設の周りにレンタル自転車のスタ
ンドがある。初期投資は必要だが、実際に実施している都市もあるので府中市
美術館も参考にして欲しい。

2 6 将来の美術館像

(1) 開園当初と人の流れも変わっているかもしれないので、府中の森全体の
デザインの見直しをしても良いかもしれない。

(2) 美術館として長いスパンでの将来像を持っているのか。

(3) 公立直営の美術館として基礎を踏み固めることが特徴になるのではな
いか。100年後にどこまで市民美術館として充実したものに発展するため、よ
い展覧会を開催し、名作品を収集していきたいと考えている。

(4) 不登校や高齢者といった方々に、活力やよろこび、生きがいを感じても
らえる美術館。